社会医学研究会
2023 年度 活動報告書

目次

はじめのお言葉 3
子ども食堂ボランティア 4
ぬいぐるみ病院ボランティア 5
大和高田無料塾ボランティア 6
レジンアクセサリーセクション 7
なかよし保育園ボランティア 8
手話の会 8
小児科学習支援ボランティア 9
あとがき 10

はじめのお言葉

私が社会医学研究会（通称：社医研）のクラブ顧問のお役を引き継ぎさせていただいたのは、前任の嶋　緑倫先生が小児科教授を退任され、医学部長に就任された、2020 年 4 月のことでした。嶋先生からは時折、社医研の活動についてのお話をうかがっておりました。自分たちで病院や病院を取り巻く環境に関する問題点を話し合い、自分たちでできるボランティア活動を提案し、それを私たちのところに相談しに来る、主体性を持った活動的なクラブであるとのことでした。過去の活動内容を尋ねますと、疾病により長期に通学できない子供たちに対して、勉強をフォローしてあげたり、相談に乗ってあげたり。さぞかしご両親、ご家族も喜ばれたことでしょう。

私がクラブ顧問として実際に関わり始めた当初、2020-2022 年はコロナ禍の真っ盛りで、クラブ活動もその性質上、自粛せざるを得ない状況に置かれていました。そのような逆境の際にも、遠隔コミュニケーションを駆使する等の代替案を出して、何とか活動を続けようとする姿勢には感心させられました。このようなステキな『こころね』を持つ医大生たちが、医師となり看護師となって医療に携わる奈良医大の将来は明るく希望に満ち溢れています。私が社医研に関してこれまでに感じたことをつらつらと述べさせていただきましたが、是非とも現役・社医研メンバーの後述記事をご覧いただき、共有していただきたく思います。そして、今後とも社医研のボランティア活動を温かい目で見守ってくだされば幸いに存じます。

2023 年 9 月

耳鼻咽喉・頭頸部外科学

主任教授　　北原　糺

子ども食堂ボランティア

医学科 4 年 藤井祐紀

子ども食堂ボランティアは主に社会医療法人健生会の主催するおひさん食堂やフードバンク大和高田さんが主催するひとり親世帯応援企画に学生ボランティアとして参加する活動です。今年は 4/2（日）と 7/30（日）に開催されたものにそれぞれ 9 人と 12 人が学生ボランティアとして参加してくれました。

ボランティアでは各ブースの手伝いをしました。例えば食材ブースでは利用者の方に食材を渡す手伝いをしたり、工作ブースではおもちゃの作り方を実際に子どもたちに教える役になりました。また、ありがたいことに今年から企画内に社医研が自由にできるブースをいただけることになり、前もって部員達とブース内容を考え当日に向けて準備をしました。7/30 のボランティアでは、夏のイベントを取り込んだブースにしたいという意見が上がり、スイカ割りの疑似体験ができるブースを開いたところ、参加した子どもたちが楽しんでくれたのはもちろんのこと、親御さんも子どもの様子を動画に収めたりとブースに来てくれた全員を楽しませることができました。

この活動は利用者の方と接することのできる貴重な機会であり、実際に参加してくれた部員からは、「子どもたちが元気いっぱいでかわいかった」「実際の利用者が自分のイメージと違って驚いた」といった声を聞くことができました。これからも引き続き、多くの部員が参加して新たな発見をしてくれることを願っています。

最後になりますが、この場をお借りして参加を受け入れてくださっている健生会やフードバンク大和高田の皆様には厚く感謝を申し上げます。今後もよろしくお願いいたします。

ぬいぐるみ病院ボランティア

医学科 4 年 山名智尋

ぬいぐるみ病院とは、ぬいぐるみを患者さんにみたて、子どもたちにはそのお父さん・お母さんとなってもらい、そして私たち学生が医師・看護師となり、お医者さんごっこをする取組みです。子どもたちに病院に対しての恐怖心を少しでも無くしてもらうこと、そして自分自身の健康について興味を持ってもらうことを目的として活動しています。

今年度は夏休みにひかり保育園で活動を行いました。子どもたちは、初めは緊張した様子で診察の場所に来てくれるのですが、ぬいぐるみに注射をしたり包帯を巻いたりと診療を進めていると元気になっていくぬいぐるみを見て嬉しそうな表情になり、私たちまで嬉しい気持ちになりました。

子どもたちに楽しく健康について考えてもらえるよう、これからも活動を続けていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

大和高田無料塾ボランティア

医学科 5 年 石川綾華

高田市で行われている「中学生友の会」という活動に 2022 年 10 月頃から参加させていただいております。この活動では高田市の中学校に通う中学生と一緒に身体を動かして遊んだり、勉強を教えたりしており、対象は主に学校の勉強についていくのが難しい子や学校に行くことが出来ない子など、学校生活において何かしらの困難を抱えている子ども達になっています。

この塾が開かれた経緯について少し説明させていただきます。日本には、部落差別という人権問題があり、かつて日本国民の一部の人々が住む場所、仕事、結婚など生活のあらゆる面で厳しい制限を受け、差別されていました。このような人々が住まわされていた場所のことを「被差別部落(同和地区)」、これらの人々に対する差別を「部落差別」と言われています。このような地域では、教育においても制限を受けていたため、すべての子どもたちが平等に教育を受けられるようにと、「中学生友の会」が立ち上げられたそうです。

この会は学習支援とともに、様々な環境に置かれる子どもたちの居場所づくりも目的とされています。活動前半のスポーツの時間には、バレーボールやサッカー、キャッチボール、バスケットボールなど自由に身体を動かして遊んでいます。この時間に初めは一人一人別々で遊んでいることもありますが、スタッフの方が声をかけるとみんなで一緒に遊び始めることが多くあります。私はそれぞれ 1 人で遊ぶのが好きなのかな、と思い声を掛けるのを躊躇していましたが、やはりスタッフの方や他の子ども達と一緒に遊んでいる時の方が 1 人で遊んでいる時よりも生き生きとしているように感じられました。子ども達とスタッフの皆さんの間には信頼関係が築かれていて、心を許して一緒に楽しんだり相談したりすることのできる人との繋がりが子ども達にとって安心できる居場所を作るためには大切であると実感しています。そしてスタッフの皆様からは子ども達との向き合い方など、活動の中で多くのことを学ばせていただいており、この活動での経験は将来医療者となった時にも活きるものであると感じています。今後も子ども達とのコミュニケーションを大切にし、継続的に活動に参加させていただきたいと考えております。

レジンアクセサリーセクション

医学科 4 年 藤井祐紀

レジンアクセサリーセクションは月に数回希望者が集まり、レジンを使ったアクセサリーづくりの練習をします。初めはレジンの扱い方から始まり、慣れてきたら作品作りにも挑戦してもらいます。参加者は経験者もいれば、多くは大学に入ってから始めた人が多いです。私も大学に入ってから始めて一年近くが経ち、簡単な作品なら作ることができるようになり、人に作り方を教えることができるまでになりました。

作ったアクセサリーはボランティアで配ります。直近では 7/30（日）の子ども食堂ボランティアにきてくれた子どもたちに宝石の形のアクセサリーをあげました。将来的には、小児科学習支援ボランティアなどでも配ることのできるようにしていきたいです。

この活動はコロナ禍の中で多くのボランティア活動への参加が制限され、このままでは部としての活動ができないばかりか部内の交流すらも無くなってしまうことを危惧した先輩によって始まった活動です。活動にあたって必要な道具など全てその先輩が用意してくれました。1 人で始まった活動も少しずつ参加する人が増え、他のボランティアの活動が少しずつ再開された今でも活動を続けることができています。歴史の浅い活動ではありますが、子ども達に喜んでもらえる作品を作れるように、これからも作品づくりの腕を磨いていきたいと考えています。

なかよし保育園ボランティア

医学科 4 年 山名智尋

なかよし保育園は奈良医大に勤務されている方のお子さんが通う保育園です。私たちは放課後にお邪魔し、親御さんの帰りを待つ子どもたちと一緒に遊ぶという活動を行っています。

私たちが子どもたちの遊んでいる部屋に入ると、子どもたちは笑顔で駆け寄ってきてくれたり、遊びの仲間に入れてくれたりして、その無邪気さに心が癒されます。何度も通っていると顔を覚えてくれるお子さんもいてとても嬉しい気持ちになります。また、遊びの順番を待てるようになったり、おもちゃを独り占めするのではなくお友達と一緒に使えるようになったりと、子どもたちの成長を感じることもできます。

私たちも保育園の子どもたちとのかかわりを通して、子どもたちはどのようなことに興味があるのか、どのようにすればみんなで楽しく遊べるのかなど、たくさんのことを学ばせていただいています。普段の生活の中で小さい子どもたちとかかわることはほとんどないため、貴重な経験をさせていただきありがたく感じています。

最後になりましたが、なかよし保育園の園長先生をはじめスタッフの皆様、ならびに学生の活動を心優しく見守ってくださる保護者の皆様、そして何より保育園の子どもたちにこの場をお借りして感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

手話の会

医学科 5 年 田中克樹

手話の会は週に 2 回（基本的に火曜日と木曜日）大学内の教室で昼食を食べながら、みんなで手話を学んでいます。活動日は 1 週間に 2 回としていますが、両方とも同じ内容なので都合の良い方に来ていただいています。

活動内容としては、先輩に作っていただいた過去の動画を観ながら真似をしたり、手話の本を見ながら動きの確認をしています。さらに覚えた手話で実際にコミュニケーションをとり、自然な形で手話が使えるように練習しています。

その他にも「聾」を扱った本の紹介や希望者への貸し出しを行っており、手話の背景にある「聾教育」や「聾文化」について知ってもらい、あらゆる面から手話について学び、考えてもらえるようにしています。

小児科学習支援ボランティア

医学科 6 年　山崎次郎

小児科学習支援ボランティアは奈良医大の小児科病棟に入院している白血病などの長期入院の患者さんがいる時に学習支援のボランティアをしています。

小・中学生は義務教育であるため院内学級などがありますが、高校生は義務教育ではないため、長期入院による公的な学習支援が十分ではありません。社会医学研究会ではそのような高校生のために学習支援を始めました。患者さんの要望に応じて曜日や時間の他、頻度・科目・進度を決め、ボランティア参加者でシフトを組みながら行っています。

直近では 2019 年に白血病の患者さん（高校生）の学習支援を行っていました。新型コロナウイルス流行後は現状要望がないので活動は休止の状態となっています。現在は病院が患者さん向けに Wi-Fi を契約していただいているので、個人情報の扱いに気を付けながら zoom などを用いた学習支援も考えています。

あとがき

今年は実に 7 年ぶりとなる活動報告書を発行することができました。各活動の代表者の方々に執筆をお願いしています。快くお引き受けくださりありがとうございました。このように各活動の様子をまとめることは、いつもお世話になっております北原教授、OB・OG の方々に今の社会医学研究会の様子を報告すると共に、新たな活動を含めて現役部員に対し様々な活動を知らせていき、社会医学研究会をますます発展させていく良い機会になればよいと思っています。

今年度は休止していた活動の多くを再開することができ、部内にも少しずつ活気が戻ってきたように感じます。新入部員もここ数年では一番多く、39 人もの新入生が入部してくれ、大変喜ばしい限りです。活動している部員達の多くが複数の活動に参加しており、部員同士の交流も大分活発に行われています。私自身もいくつかの活動の代表者を担当し、大変ながらも貴重な経験を多くさせていただきました。

社会医学研究会は活動の性質上、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた部活です。ボランティアのほぼ全てが休止となり、一時は活動できることが何もない状態がありました。依然として再開の目処が立たない活動や、活動を再開できたものに関しても、当時の様子を知る先輩が既に卒業なさっており、コロナ禍以前のような活動ができていないものもある現状になっています。ただ、コロナ禍を経て新たに始まった活動もあることは大変喜ばしいことではあります。まだまだ完全復活とはいきませんが、今自分達ができることを一つ一つ頑張っていき、先輩が守ってきたこの部活を後の代へと繋いでいけるよう、部員一同いっそう励んで参ります。

最後に社会医学研究会の活動を運営するにあたって、北原教授をはじめ、OB・OG の方々、先輩方、部員のみなさん、外部で協力してくれた人達など、多くの方々に支えていただき本当にありがとうございました。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

2023 年 9 月

社会医学研究会 代表

医学科 4 年 藤井祐紀